



月
此
夕

全



目つゝるゑのまゝにやうにきゝ考
孝体の十と書あやうらとせに及ぶ古
まとれもひく月れぬぬる城まき
よちうきあやうらよ祭をきまの
ふ士は信ししてたまたあまひハ一
そねまはんとくくくあぢぢ日
而齊他しちまてま白ゆると
まゝに様子をこなりんもま
つゝりれにゆれ一まををま

つたあはにや親のあはさるれ
とらふとらんかきとらふとら
うしれんしーアしぬのよはてふ
はらハ君あのみさあうのひな
手話のたうしーい成もしくはに
腕もえうくにはとよそくかん
似やれとやうきんは昔も
とくちにはやととらぬの

糸仙

素林

糸仙や押合ふ親ハ糸仙
笑ふむかしのしよは新垣
鶴の白田れその我振舞を
何んゆさるんちんちん
りあ華うそこちの按あを
晴てしと華れ者にけり
ころせあし麻もかると

杜麦
鬼土
巴音
東里
曾呂
洞爺

下之の多あ〜とて〜川
東よりきたり柱の傍心
示は佛も居る波の能
うもあふり収る所も増明て
吾妻あ〜馬〜輝も并水
まゆりも障もあつてその名もとり
二日夕あ〜離れ〜
おれ〜と〜
て居る

畔古
楚二
茶城
茂
丸耳
如之
東湖
加條

下陰の附ハ不破は実あり
吾の音子力勢〜
之場に負れ口ハ〜
居る所〜
信書ら〜
裾ハ〜
むあ〜
侍〜

云歩
温故
於免
其口
有雪
帆皆
杜十
井梧

ちと蓮ハ仙居のゆきまを
作る物れ獲るはゆきま
雪に又流る 極め 孝子
遊人ハ評を知らず芳たて 里村
もよりアノ月よし此果 南二
れハ馬子守て信を居る 魚里
舟ハ何れも此勝ハ 百生 里雨
葉向の仕もハるハ 波友

木と云ハ御うつそ 女三宿 單車
家振のなくるハるハ 後之 歌隣
何れ日ハ白も酒をりれそ 鬼船
條ハ一冬ハ底りりそ 南利
まの價れ草種と吹 胡東

香

香浪

とくぬぬの目之志事此極底
 二拂てし追て一厥の治虫 素道
 お摺方おの認てくちの心海を介す重
 もとの心帯も一若虫も掃ちなり 風芝
 干魚も七燈もかゝり 藪うもふ 菖蒲
 の柄もとわくはつり菖蒲代 又畝

あつ

級をくみ給ふぬ秋の月夜くれ 兔土
 直波の海干におし月のひの 編二
 めらおふりもて月と斗舞や水車 知之
 ねもいぢりまの流るやりの目 巴音
 琥珀もは若と吸てりて草の目 東重
 ちよよとて底も月破や色瓦 菊茂
 をくくぬの板の片破や色瓦 曾名

玉より一のたづね同りやうの目
 善悪のまはあらしの智あるまの目
 名月の玉皮むらやと連なる徳
 名月の月あふとつてはらりるを
 志すしては神ともを居あつ月の音
 否しよらるる一のれ替りもそらあ
 月よあふあつてはらりるの同り
 光陰ハ射あふし月ののら
 洞郭
 楚二
 茶城
 歩出
 雄古
 温故
 素遠
 畔古

死一のれあ一のたま月の十二之夜
 之成あつての物ハ毛一の右待月
 月よあふ思ふあるまはらりる
 名月のよに居あふとつてはらりる
 かしはらりるあつてはらりるあつ
 名月のあつてはらりるあつてはらりる
 明しはらりるあつてはらりるあつ
 何れあつてはらりるあつてはらりる
 南利
 寸童
 東郭
 云あ
 其也
 杜十
 有指
 單車

一ろとく 紫雲はゆき月人か 里村
は清の多き中へ私し水の月 井梧
同高の月の子は夜や花の下 池希
名月や夜乾しく 明鳥 如弁
その花やうへ 端斗ぬ月の世 文水
十の夜や海し 岸をその夜のこり 加條
子猫の者なれ 菊はよみそ 春海月 波友
掬けのるを 掬をうてし 月 湖嶺

勢やあらしの月れ 三年
衆是より 狂をある 居跡 自 浅窟
名お八指の 云し 居まら 自 歌
目くしき 男をうりの 月らんが 路考
在にこれ 則も入す ところの 月 亀北
龍舟も年よ 月ね 月 斗仙
山名 どの 係は ぬら 月 龍光
名月 鬼を ぬら 月 茶又

りあしきやむうしーはうしー月夜
白雲のこもるしほの月夜
草のたけの影の月夜
月一つ影の影の月夜
凡そとて井の影の月夜
月の影の影の月夜
初月の影の影の月夜
舞の影の影の月夜

百景
古寺
舟二
夕景
桂之
湖東
墨峯
歌隣

向うしてさうのいふ月夜
そなたに月夜影の月夜
月小口明く影の月夜
文書に月夜影の月夜
紙舟の影の月夜
あゝとて影の影の月夜
ふあんと影の影の月夜
ふりふ影の影の月夜

茶也
石浅
帆舟
墨雨
鬼波
鬼船
花蓮
襲也

為りしや七柄ハ杖の栲はしな
為りし心ハ何ぞしても音聲ハ
月影ハさのこくろの古ハハ
るめこれおのよ思やさの月
えあしつ柄のるしごの月
字あきてくね都お影やさの月
端迄も柳やさぬちやさの月
栲の片類はさるし十一之

法郷
東湖
倭客
雨臺
九江
深之
土風
左舊

教をくたてし鳥やあめの目
この世ハあにめくね日
しこしこしつこくろの月
身もこころあしちんさの月
昔も柳は影ハつたの月
さうたへ肌をくねしあ
栲例は栲と密しあ
血をりねも口と成ぬ月ハ

里邊
風芝
巴石
楚礎
柳下
糸斗
泉涼
朗吟

あの日も好まぬおくらしくも望まざりて
る佛も虫のしきもや好の月
月かしくともよくはれ法師
深白のさる白もや好の月
ち歸りて程氣くも月人
あの枝も角もくもくもくも
あの日も好まぬおくらしくも望まざりて
る佛も虫のしきもや好の月
月かしくともよくはれ法師
深白のさる白もや好の月
ち歸りて程氣くも月人
あの枝も角もくもくもくも

電子

秋雨

春字

拜春

三喜

夏下

呂由

宣志

表

浮石

山の陰翳と押入ぬ月と
頼りたる者ハ軍の松凡
振賣の持は鏡の首を垂らす
あつちの侍さへ何のれや
あつちの侍さへ何のれや
あつちの侍さへ何のれや
あつちの侍さへ何のれや

担人

末吉

味調

巴朴

秋至

名取

椽の比ふも玉もすもやうの月 入楚
 暹君の月にもあつやまの月 巴朴
 名月や物も鏡も定つつ 祖人
 名月も世らあしよし深遠 木音
 三やの月のあつとあ月 鷹路
 名月や物もあつとあ月 味調
 名月や物もあつとあ月 秋至
 名月や物もあつとあ月 兔柳

名月や物もあつとあ月 星史
 名月や物もあつとあ月 星雪
 名月や物もあつとあ月 羅
 名月や物もあつとあ月 仙毫
 名月や物もあつとあ月 船任
 名月や物もあつとあ月 凡龍

名

あつらへりて後ゆゑの志やあつらひの月 孝推

虫け樹も秋の志やあつらひの月 市秋

東もあつらへりて後ゆゑの志やあつらひの月 芭人

独も樹も店凡品中侍 孤蓬

そつれもあつらへりて後ゆゑの志やあつらひの月 帰葉

垣根も秋の志やあつらひの月 杜人

目の夕暮四の文道はあつらひに
記す

あつらひ書あり畧す

塩竈の煙も白くあつらひの月 市秋

あつらひや水くく揚屋の月 杜尺

門のあつらひも八粒の月 飯堂

八月の家も秋の月 孤蓬

葉もあつらひも秋の月 一睡

木末にも秋の月 濃波

十の夜も秋の月 芭人

よ名

木造

蝙蝠律

波乃と一むうしちやう月の舟

きくし書よハ号くぬ卯辰 射石

暗雲庵子老とのんこ考れ短くく 飛泉

流し吐く雛の 高秋

身てん中ハ下籠子遠く心の歌 巴山

あらく句しと半るる鳥之 執筆

古心

名月と夜一芥あり辰の歌 射石

名月と地と人ら名も柳の 飛泉

まふとくし柳とくく月歌 高秋

懐と遠も夜月や二子やト 巴山

流乳しこ子と草花やまの目 巴山

光陰の的は夜とや月のら 此里

名月と夜一柳の字の海 四好

法眼とあまうし夜とく日とくし 柳士

十六夜やそとくの世ふの龍法師、虎文
自どりには芝枝あり、猿すくま^{久居}寸霞
羽根のよこやうにききあて月人^津二り信
指れこ月とんとそあのみむし、悦安
名りやうあて詩人の世のあ、鳥語
名月や八株よりも板をきし、干月
と人のら^{幸名}新のあ、居詩目、乙祭

告

大和

古山

清土の世あきとの神やりの月
ふのら^{史外}と流り秋のそあ
る信を稲とおらし、流りて
奥より先へ糸帯、一斗
松あゆし、谷所平船、一斗
積屋の道、夕白あて、秋

名此

胡秋

春秀

春亮

信重

史外

名のりや馬を控りてく明や馬 史部
月一つにさやのて散物しう耶 信重
名のりや田毎もさのの編 楚 麦香
名のりの雪にさる所 市の郭 麦香
物への双や巾をくくやさの自 胡秋
淋しう成さおは散く月の為を 南為
名にほちさの明くさく自の物 蝶角

よ名

七心記

くむのり月一つにさのふれあし 露晴

凡ありさのりさしてさあのみ 文蝶
ま邪極く思田とさねさのめを 水
浅やゆさあし起しる 可存
筆のぼは清くゆらねたをわ 之景
柳のこ柳のこよさあのみさ 露更
名のりや起し馬を養てし店 巴那

五歌よ身とつちあてし徳をいふの 野風
瘦かぬて流麻起り海の月 只山
山陰の松は雲を陰やあつきの 月 和氷
世の半も公分や月も十之東 兼舟
村をよの玉吐ちるやとられ月 至立
天のよのえぬ世の人なき配り 之景
雲集れ新雪さきしりの月 露更
下ちると兼んく物しほの月 可及

雲の天れ雲も照るさあのみ 文蝶
名りりし角く身しものことかえ 露曉

全 冬河

投をれ空に七照るさあのみ 麦雪
凡そ吹物あてれ昔は月あふ 一湖
中列川は草と晒さやともあ月 燕児
報りも柳白よりさつさつをれ 只川
一気ふりて空とふらけ月月の端 麦二

雪れの枝はあもれとらあのみ
 層の弁をくもくはるく日敷に
 二十里は外あもくもはるく日敷に
 涼や秋は片をふは照やこの月
 ちりやしの夜してたやこの月
 一葉は柳もあもくもはるく日敷に
 泊あこの海航よんもてこの月
 あもくもはるく日敷に

杜右
 素郭
 素毫
 如石
 波水
 一瓢
 有鄰
 又末

全 卷濃

名月あはるく日敷に
 明くもはるく日敷に
 胡れあもくもはるく日敷に

飛良
 有帆
 且伶

全 山城

雪れ日のあもくもはるく日敷に
 名月あはるく日敷に
 名月あはるく日敷に

大阜
 仙行
 雲裡

東武

玉溝

月影をさかす花の影も
乾く月と

よき

守黒庵連中

竹外

あつちやわづら目まをほく居

南交ても亭一の帆 老梅

仲の帆の影も秋のよきはて 老梅

ささるうらささるうらささるうら 花明

狩りうのよ梅とくよんささる 梁堂

いつと雁さ酒を一軒 古道

考心

月さるうらささるうらささるうら 古道

あつちやわづらの葡萄よよんささる 老梅

あつちやわづらささるうらささるうら 梁堂

波の岸は長谷は長谷は長谷は長谷 花明

さし波れおめあしうらぶの月 青潮

名

あしうらぶの月 海を渡るの夜に

岸ハハそと海をくさの音 左頁

あしうらぶの月 海を渡るの夜に 此巻

あしうらぶの月 海を渡るの夜に 翅白

あしうらぶの月 海を渡るの夜に 巨鈎

あしうらぶの月 海を渡るの夜に 朱鷹

名

あしうらぶの月 海を渡るの夜に 巨鈎

あしうらぶの月 海を渡るの夜に 此巻

あしうらぶの月 海を渡るの夜に 翅白

あしうらぶの月 海を渡るの夜に 朱鷹

あしうらぶの月 海を渡るの夜に 左石

名

あしうらぶの月 海を渡るの夜に 楓人

ゆりたに歌奥やうしは公契 三巴
志日や瞳とあもふ布の奥 上丈
きりや二徳のね志かえの仁 断花
ゆりやみ涌こきし雲の歌 青原
きりや叶しあみの今をむし海 寺子傳
浪屋は海をさうはれやりの月 厚風
一様は降るぬえまやあめの月 瓊浮
きりやうかた子所を記置世の 仙花

きりやあのをふりまじしあ月 雨江
きりや梅くこしひあを 石女
西橋のねあつかのそ月人 有氏
むきし節よんのあもあつあ 完山
かりここの神おやあめの月 雪天
きりやや鳥の空をこりてけり 法橋
ゆりや湖ゆらまうした境の布 其雄
うしろ橋はきりたはよしあめの月 家入

名一のや 龍の波越え少行京
系一のや 鷹の懸やもあのみ
のりや けしきよめり橋の反
名一のや 踏のえりたんの夢
所一のや 橋しり破くしんくさの月
細長とのの橋やしころの月
名一のや 賑れは代はねつ
空つうのこぼれころのまらんさあのみ

み海

飛牙

柯涼

五年

石雉

里様

曲全

戦尾

全

常陸

のりや 宵まにこ敷くし板の方
名一のや 氷柱しきもりらなまこれ
名一のや 空に雲はさそりあのみ
名一のや 空をれは弦掃くは
名一のや 破すりもあのみ
玉まよひぬあはりの月
名一のや 橋しりたもねり石の橋

青郭

野亭

加翠

豆花

市中

一瓢

雨琴

三弦の竿もそとちやあめの月 亀文
 帆柱はあも山陰やうめの月 春雨
 名りゝの岸らのよちや明の境 仙雪
 図雨はあやま車はやうめの月 古解
 七生は雲の飛やとらの月 之六
 名りゝのやうめはあやまのそとちやうり 命江
 山りや雲のてつのは千里 木鷄

上巻

東氏

鳥醉

あゝもやみあふてあはれな言の人

あゝも秋のさ秋なる川 塚

百景

あゝもあつと踏踏は機織て

百景

あゝもあつとあつとあつと

深草

あゝもあつとあつとあつと

花光

あゝもあつとあつとあつと

暮江

巻の

名りのやいぬとくんとて生れた夕 童年
神原の翠の影にまはるるあつた月 杉空
時とて心流つてあつたあつた月 知林
名りのやいぬとくんとて生れた夕 祀漢
月とて心流つてあつたあつた月 百重
念老もに名ゆの影あつたあつた月 百弁
名りのやいぬとくんとて生れた夕 深泉
深きつゝあつたあつたあつた月 高江

とて昔の橋は流れてあつたあつた月 飛走
名りのやいぬとくんとて生れた夕 一路鳥
名りのやいぬとくんとて生れた夕 羽橋
あつたあつたあつたあつたあつた月 女
あつたあつたあつたあつたあつた月 羽橋
あつたあつたあつたあつたあつた月 沙雪
あつたあつたあつたあつたあつた月 故介
あつたあつたあつたあつたあつた月 鳥秋
あつたあつたあつたあつたあつた月 川遊
あつたあつたあつたあつたあつた月 河長

ありや 威風凛々として 遠の 幅
ありや 富國士の保 三言の 舟
天八重を 世に して 巴橋
葦葦の 明酒と 神也 此君
傾城より こと 巴江
ありや 浪の 眠く 五蓮
ありや 松の 鳴く 東枝
ありや 胡の 鳴く 前雪

る 招の 子 乙 系
ありや 琴の 鳴く 琴舟
ありや 琴の 鳴く 夜笛
ありや 早の 鳴く 夜魚
ありや 野の 鳴く 蚊市
ありや 舟の 鳴く 把菊
ありや 舟の 鳴く 如説
ありや 舟の 鳴く 乙系

為りし中流河、通る急流の如く
為りし中流河、通る急流の如く

表

門懸

為りし中流河、通る急流の如く

あつしとあつしとあつしとあつしと

中流の如く、通る急流の如く

あつしとあつしとあつしとあつしと

具體の句ひと、實に、あつしとあつしと

あつしとあつしとあつしとあつしと

あつしと

玉川、あつしとあつしとあつしとあつしと

あつしとあつしとあつしとあつしと

あつしとあつしとあつしとあつしと

あつしとあつしとあつしとあつしと

あつしとあつしとあつしとあつしと

晴院の月と秋と知あるころの月 橋下
ありとも昔の風打帆をけりか子 茶秋
ありとも麻衣にまら結む水の音 素木

全

鴻巣

柳儿

かききの神に祈るはあのみ
ありとも昔の風打帆をけりか子
ありとも麻衣にまら結む水の音
ありとも柳の影にまら結む水の音
ありとも柳の影にまら結む水の音
ありとも柳の影にまら結む水の音

免瓊

栢也

全

駿河

ありとも柳の影にまら結む水の音 翠紅
ありとも柳の影にまら結む水の音 對江
ありとも柳の影にまら結む水の音 楚雲
ありとも柳の影にまら結む水の音 月弓
ありとも柳の影にまら結む水の音 文添
ありとも柳の影にまら結む水の音 芦川
ありとも柳の影にまら結む水の音 故川
ありとも柳の影にまら結む水の音 和紅

一唯

賀

後川

かきりしむのあまの月日

藤よはるかに集くあま

船しにまをみもさしと

なみ怪ハ人り 語り

系どののあまうとほと

夢あとしら月よなみの

山嶺をわよらるる時

如木

五葉

詠夕

可枝

倚之

蘭皋

城くはれよあまの

各に

名りやはを多しを

指しし平よのちや

山あいらふよ踏く

名りのや社へ

指してやる

明りに

柺筆

如木

芦洲

可枝

蘭皋

倚之

詠夕

多日の中、秋の鶉の鳴き声、
天の雲、遠く行く雲の影、
秋の月、空の星、
奇麗な月夜、
明りや程の遠く、
名もや、
草も枯れ、
一草

多日の中、秋の鶉の鳴き声、
天の雲、遠く行く雲の影、
秋の月、空の星、
奇麗な月夜、
明りや程の遠く、
名もや、
草も枯れ、
一草

あまの空の雲、
月角口の雲、
ひまわり、
雲、
一具、
雲、
雲、
雲、

あまの空の雲、
月角口の雲、
ひまわり、
雲、
一具、
雲、
雲、
雲、

舟のし風とにらむや為の舟
くちて言るく清橋や舟月
舟月やとらととる市生清
舟月やとらとら舟月
舟月此羽ら言指や舟月
舟月や想ととらとら舟月
舟月やうれてとらとら舟月
舟月とらとらとら舟月

雉口

可松

尺步

孝晚

丁固

北秋

葭由

加草

舟のし風とにらむや為の舟
舟のし風とにらむや為の舟
舟のし風とにらむや為の舟
舟のし風とにらむや為の舟
舟のし風とにらむや為の舟
舟のし風とにらむや為の舟
舟のし風とにらむや為の舟
舟のし風とにらむや為の舟
舟のし風とにらむや為の舟
舟のし風とにらむや為の舟

湖舟

暫愛

農布

帛糸

里朝

全

舎糸

封卜

乃のや芭蕉のこもろて雪の体 楚雀
病の眼とまろや云々の月 とせり 芭蕉
乃のや指とまろ 女 松のけり 珈涼
乃のやほくまを延るは神うろし 季也
三日月や玉の急も身とろり 無常 瞳

よき

千と梅と歌海とや 乃松 乃露
硯の海ぬらんと神尾 風子

軍紀におぼれ起てし 二峰
乃の白く 琴松
うむひて 芦首
乃の 季之

乃の

乃の月の魂 乃露
乃知 風子
乃の 二峯

為りや九悔徳もむら松のよ 東朔
接の音はうり野やまの月 琴松
坐持ぬ徳もむら月の 昔
鶴瓦の志の傳やまの月 孝之
為りや橋のまもつ世ふりし 芥友
為りやの田れすのりや市は清 為水
よ名
高のまもり月はし世のまもり
枝量

書く清力定ぬらん序 宇林
目白の首の徳のうこもてし 孝澄
はらりや徳のゆ拂をり 多夕
河の底うもあうりし清浄 素介
聖をれ徳のはり心 吟浄 彦上
名りや形えんと思ふも 斎常 宇林
乾坤のまもり清くやりの月 百史

湖子あそく埋すやまろの月 鹿上
名りよや中條のちくぬ屋も有 素竹
明りよや何里かたし禮の上 菊有
くちまよ山も毎もやちの月 李澄

全

神よとろくく拂ハぬ言やちの月 梅下
名りよや柳よ敷てハふふ成 昔船
山屋ももくくち巾につねやとり有 多夕

名りよやあゆのくし路へ塔の影 八尾
の月や千里の蒼よ山一つ 友方
柳あそく埋てやちの月 舎未
床しこまの敷も赤もあ月 自笑
名りよや柳の株ハあそくハ 正以
これ中よまろくくち巾につねやとり有 志石
全
名りよや新ハ踏もくちの月 山印

五言

是之宙

好らうは月車や秋の空

まじりかき野へけり氣の弱ト林

草乳の蔓くく家も百も好し生北

心この秋好し又るりあり可貞

法名の屋ろくちろく海の上市園坊

そ何をし枯り流くおとこ竹至

冬心

うししくの唄もた多し月ト林

人少とあし川く好やあ月竹至

窓の窓の法や月北あり生北

あしよは嫌くこと空の中可貞

あしよは接もあしあや津田の傍嘯風

形月やはるを統くあのと示貞

月の想やるよあくあまふ女千代

あしよは好の屋の店あらし一麻

一 呪

越中 白推

五月廿八日 辰巳 辰巳 辰巳

五月廿八日 辰巳 辰巳 辰巳

五月廿八日 辰巳 辰巳 辰巳

五月廿八日 辰巳 辰巳 辰巳

五月廿八日 辰巳 辰巳 辰巳

五月廿八日 辰巳 辰巳 辰巳

五月廿八日 辰巳 辰巳 辰巳

五月廿八日 辰巳 辰巳 辰巳

五月廿八日 辰巳 辰巳 辰巳

五月廿八日 辰巳 辰巳 辰巳

名

五月廿八日 辰巳 辰巳 辰巳

五月廿八日 辰巳 辰巳 辰巳

五月廿八日 辰巳 辰巳 辰巳

五月廿八日 辰巳 辰巳 辰巳

竹もろや干草も雲の夕化粧
待もろや詠もあつ方一の芥
白紙の紙も雲より塔の中
至泉 似松 兔秋

全

二友若くは月にも垢やと朝の雲
命も秋らんあつと月見に
仁下と心もあつ知らんもあつ月
何と掃らんあつ秋の紙もつあつ月
大圭 高汗 岨邑 大園

美し江洲のささのやと偏の杖
康工

表

麻父

石もあつ月も雲れ結もあつ
中もあつ方に塔らん
あつ紙もあつと秋もあつ
馬の草もれ知らんもあつ人
松もあつ月もあつあつあつ
月もあつ月もあつあつ
秋花 路由 可牧 鳥雲 野邑

各心

ありや林下れあよあおの煙 秋花
 后の月障りし待初れ 鳥馬
 ありや初まれ中懐も咲て居 廿宙
 山つあそんまより 一しん夜 可牧
 こし祝ハ初よ笑えりや 草下為月 嵐如
 ありやえ持もんくく 鷲の杖 林客
 まふらちもさゆひうまもあり 木音の 互三

夜夜とあしつたやあゆの月 宇己
 ありや神もあはれ 木火も雪記 墨十
 云しんあはれあきの玉をさあゆ 苔洲
 ありやこあはれこけり サ初ゆのたふ 女年 概合
 后連しあはれハ 神 涙の月さ 白雄
 空層よ云しん初るさあゆの月 浦朝
 草塚も初初詠る 古月ん心 羅石
 柳よあはれさあゆの月 少年 舟歩

待るる月の影もあはれきりし月影の白糸
鴨もくし貝斜ちりし水の月影
西の月影もあはれきりし月影の白糸
うきし月影はあはれきりし月影の白糸
一平の月影もあはれきりし月影の白糸
お入平れあはれきりし月影の白糸
梅もあはれきりし月影の白糸
花もあはれきりし月影の白糸

待るる月の影もあはれきりし月影の白糸
あはれきりし月影の白糸
あはれきりし月影の白糸
あはれきりし月影の白糸
あはれきりし月影の白糸
あはれきりし月影の白糸
あはれきりし月影の白糸
あはれきりし月影の白糸
あはれきりし月影の白糸
あはれきりし月影の白糸

あはれきりし月影の白糸
あはれきりし月影の白糸
あはれきりし月影の白糸

名

讚岐

是橋

今山崎の舟とてらん舟の月

舞子とててしれしらん舟

澹洲

鷹の羽の刺も苦れは信定

山槐

句しやら縄子屋も時久

長木

石の目とあふきさ海し多原

琴河

えんまうし月らさけ孫の心

戸圓

全

格うねぬあや流にもあの日

畏天

中懐もあくとあつく毛種

普山

舞子の母めは角力子精をて

帆歩

半く七老は八五好

舞石

わか省も梅もさく右出は成

連鳥

杖のやうなる向は葉ゆを

素来

各名

富れ夜の垢はぬけさるる月

山槐

白名海子舟おんふりやりの月 帆歩

柳の夜のをるやらの月 澹洲

月と海のおよぶに公やりの月 普山

鳴きのあそぶ波やらの月 素来

るや波はも玉をちるの月 長来

秋やあそぶの月 戸圓

高きうしろの月 葺石

高きうしろの月 琴河

波と海子の舟の月 漣塙

下中つれと舟の月 畏天

舟のやうな舟の月 是橋

全

擬宮珠も摩の舟の月 一之

芋堀と細とるの月 里曉

舟のやうな舟の月 路合

松月と舟の舟の月 旅友

香の似くはふしとわら月 吐草
飛ふも麻と配れやけの月 其汁
益影もよきし月 魯川
名もや 碓の宮も 孝赤
涼か 唐洲 ころやとりの月 朱竿

五言

伴福

麦邑

はぬまの秋すめ月 月 野菱
坪は源り 梅の神夜

産人ともふま 夕位 烏帽子 青梳
伊ふもその 態 二筑
は原の隣も 風徐
梅もみ 河流

五言

浪は秋れ 新や 東互
世はは 珠り 干條
石筆は 志山

吹あけくさうあううも秋の月了号
 文豪の月やうえのうさ楓山
 海もれうさあ廣し月の秋二穂
 百八の穂も外あうう朝の月夜白
 みたた身ぬ柳もちらるや月の香青抱
 穂もくくう保ぬ山あうう穂もあうう
 山の穂もぬく朝もてう朝の月未樵
 打うくけいさうあうう秋の月野菱

靡帯れ悟氣もさうや月の眉吳風
 浪もれ合と流や水の月二筑
 若もの比あもさうもさうもさうもさうもさうも
 雲梯も穂も秋もあうう月の山至東
 朝月もさう軍もあうう境れ水知穂友之
 川音に傳やもくさうもさうもさうもさうも
 月のもれさうもさうもさうもさうもさうも
 月の織りもさうもさうもさうもさうも
 狂平

名所

越後

霞舟

舟のや行も埒底の影よ

舟のや子察の程ハ眠り

花の影は世の氣をうら

字の秋の影をうら

古の影はあもり

云傳の二むり

手紙のり

麦里

北溟

槐林

斗山

蓮龜

百鳳

土所の遊嘆もあや

舟のや月の影をう

舟のや月と魂とも

舟のやとこま

舟のやけい

舟のやけい

舟のやけい

舟のやけい

鬼柳

龍虎

射柳

菊旁

凍魚

志等

淇水

苦航

仲の御も月と鏡とも 溢水
侍やと目のある御も 梨月
月影と目あるもやと 和翠
そ魂と振く甲冑は 花弄
厚くも席もさや 和郷
千の御の御も月には竹の毛 寸得
名に
尾張 常滑
不捨
榎欄の如くや 影も 庭掃りも 月

是を鏡ともしと 名も 二梅
桐の如く散く 娘も 有之
名も 洛泉

全
常陸
竹馬
唐詩も 何とりの月 草雉
おもとや 柳も 竹雨

全
越中

あしは道しをまうさるは巻 清川 知十

あしはのあしは 東水橋 杉里

神松乃乃の志 西水橋 露泉

隈もあしは 大井川 雨琴

草畑ハあしは 冬之嶺 波菱

あしは 放生津 冬之嶺

あしは 放生津 今し柳

あしは 放生津 宗足

雪棹は 雨石

穂尾の 44巴

あしは 麦丘

あしは 郊邑

あしは 南吟

あしは 菟里

あしは 石袖

あしは 兎千

名のや天の河系此水起所 東水

追加

借ハる子おりく蘇れ 遠州 土反安

今うそ笑猪の心 全 蓮仙

増の量 全 杜雪

文其心にとりハ掃 全 湖夢

や下とあり 土佐 百和

ん聲と遊 全 川布

秋の白 全 鄙崔

干し塚 全 免由

そ白 全 茂夕

秋風や画 全 吊芝

かん 全 金言

珠 全 烏雪

一 全 烏林

秋風 全 菊危

上ノ七道ハ海女ニ云々此ノ北西野川全 里園
 菘柳如シ江ニ云々此葉ヲ取ル全 兔夕
 入月此栲子如ク左 一硯
 昔年也歸京 山只

藤原

~~白 抄ノ水ニ云々此ノ北西野川
 菘柳如シ江ニ云々此葉ヲ取ル
 入月此栲子如ク
 昔年也歸~~

